

歴史探訪 Historia ヒストリア



反戦と表現に挑んだ郷土の先人

せい が く

政治家・画人 安藤正楽

安藤正楽 (1866-1953)

- 1866年 土居町中村に生まれる
- 1889年 明治法律学校に入学
- 1899年 宇摩郡会議員に当選
- 1903年 愛媛県会議員に当選
部落差別の解消に尽力する
- 1907年 日露戦役記念碑で反戦を主張
※碑文は後に削除
県会議員を退く
- 1908年 上京
学問・芸術分野に傾倒する
- 1920年 地域住民のために自費で上水道「春日井水道」を建設
- 1953年 86年の生涯を閉じる

政治家としての足跡

明治時代の幕開けを2年後に控えた1866年、現在の土居町中村に安藤正楽は誕生しました。福澤諭吉の「学問のすゝめ」に感銘を受けた正楽は、明治法律学校(現・明治大学)に進学。イタリア人法学者パテルノストロによる国際法の講義を通して、「世界の平和」や「人間の幸福」について考えるようになります。

36歳で愛媛県会議員に当選した正楽は、教育現場に根付く部落差別の解消を議会で訴えました。41歳の時には、地域住民の依頼を受けて碑文を書いた「日露戦役記念碑」(八坂神社・土居町藤原)において、「世界人類のために忠君愛國の四字を滅すにありと予は思ふ」と記し、反骨精神と反戦の姿勢を貫きました。

画人としての横顔

政治活動と並行して、正楽は芸術にも情熱を注ぎました。生涯にわたる絵画や書、詩歌、彫刻など多彩な作品を手掛け、中でも絵画は彼のライフワークといえる存在でした。そ



「最終の翌朝」
1916年



「狸の図」
1945年



「蓮の図」
1923年

の画題や画風は独自性に富み、メッセージ性を帯びています。

第一次世界大戦中に制作された「最終の翌朝」は、戦争における化学兵器の使用や当時国内で問題となっていた公害をテーマに描かれています。また、昭和天皇の玉音放送によって終戦が国民に伝えられた1945年8月15日の夜、正楽は「狸の図」で軍人を風刺的に描き、その後は平和の象徴である鳩などを描いた作品を戦没者遺族に贈りました。

蓮の花のように

1922年、正楽は画会を開いて自身の作品の販売を試みました。しかし期待した成果は得られず、画会には失敗に終わります。それでも翌年に描かれた「蓮の図」からは、創作への情熱と気力がみなぎっており、天に向かって伸びる蓮の姿は、理想と信念に生きる画人・安藤正楽そのものを映し出しているようです。

安藤正楽 時を超えて

86歳で生涯を閉じるまで、正楽は

画人・安藤正楽 - 生涯と絵 -
開催中～12/21(日)

¥0
FREE

暁雨館 企画展示室

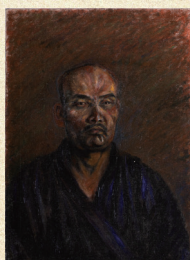
安藤正楽が遺した絵画や書など約40品を展示。

学芸員による展示解説

11/15(土)・16(日)
13:30～(40分程度)

問 暁雨館

☎28-6325 📍土居町入野 178-1



「自画像」1914年

現在、暁雨館で開催中の企画展で、その生命力を感じてみませんか。